

裏にある信越本線の碎石を測定したら最大15cmの大きさであった。

現在の碎石は最大10cmに統一されているが昔は15cmだったとのことだった。

新橋駅近くの碎石を測定したら、やはり15cmであった。

現在は10cmの碎石で全国のJRは統一されているそうです。

10cmの碎石を吸う装置「SW100型の吸いばあ」を試作することになった。

栃木県の得意先の広場を借りてテストを行った。

現場にはJRから支給された最大10cmの碎石が1トン袋に2袋送られて有った。

使用したコンプレッサーは1分間に21.2m<sup>3</sup>の空気を吐出する。

吐出圧力は12kg/cm<sup>2</sup>である。

それを2台連結したので吐出量は1分間に約42m<sup>3</sup>である。

吸引口の真空度を測定したらマイナス0.4～0.45メガパスカルであった。

※参考 絶対真空はマイナス1.0メガパスカル（人工では不可能）

それまでの経験で、マイナス0.3以上の真空度が有れば砂利は吸引出来る。

ホースの中を通過するとき発生する摩擦抵抗が少ないからである。

土砂の場合は摩擦抵抗が大きいのので、真空度が低い状態で吸引させると、最初は

良く吸うが次第にホースの内側にへばりつき（血管にコレステロールが付着し

たような状態）時間の経過と共に吸引は不可能となる。